



InterSec/LB400k

セットアップ手順説明書

InterSec/LB400k
InterSec/LB400k アプライアンスパック (S)
InterSec/LB400k アプライアンスパック (M)

法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2017
- NEC、NECロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- CLUSTERPRO® XIは日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTMや®は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証いたしません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

目次

1 章 はじめに	2
2 章 インストール	3
2.1. RAID 構成の構築	3
2.2. インストールディスクによるインストール	4
3 章 初期セットアップ	6
3.1. 初期 IP アドレスの設定	6
3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順	7
3.1.2. クライアント PC による手順	12
4 章 初期導入	18
4.1. 初期導入について	18
4.2. 初期導入の流れ	18
4.2.1. 初期導入の準備	19
4.2.2. 初期導入画面への接続	19
4.2.3. 初期導入の実行	21
5 章 注意事項	24
6 章 付録	25
6.1. ESMPRO/ServerAgentService を利用する	25
6.2. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する	26
6.3. RAID 構成を確認する	27

ごあいさつ

このたびは、アプライアンスソフトウェア製品である InterSec/LB400k(以下、LB400k)をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

アプライアンスソフトウェア製品とは、特定のExpress5800サーバにインストールすることで、オペレーティングシステムと必要なアプリケーションを集約する製品です。

堅牢なセキュリティ機能が安全で高速なネットワーク環境を提供いたします。また、セットアップのわずらわしさを感じさせない専用のセットアッププログラムやマネージメントアプリケーションは、お客様の一元管理の元でさらに細やかで高度なサービスを提供します。

LB400kは複数台のWebサーバへのトラフィック(要求)を整理し、負荷分散によるレスポンスの向上を目的としたNECのInterSec製品の1つです。

本書は、初期導入を含む初期セットアップ手順を中心に構成されています。本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

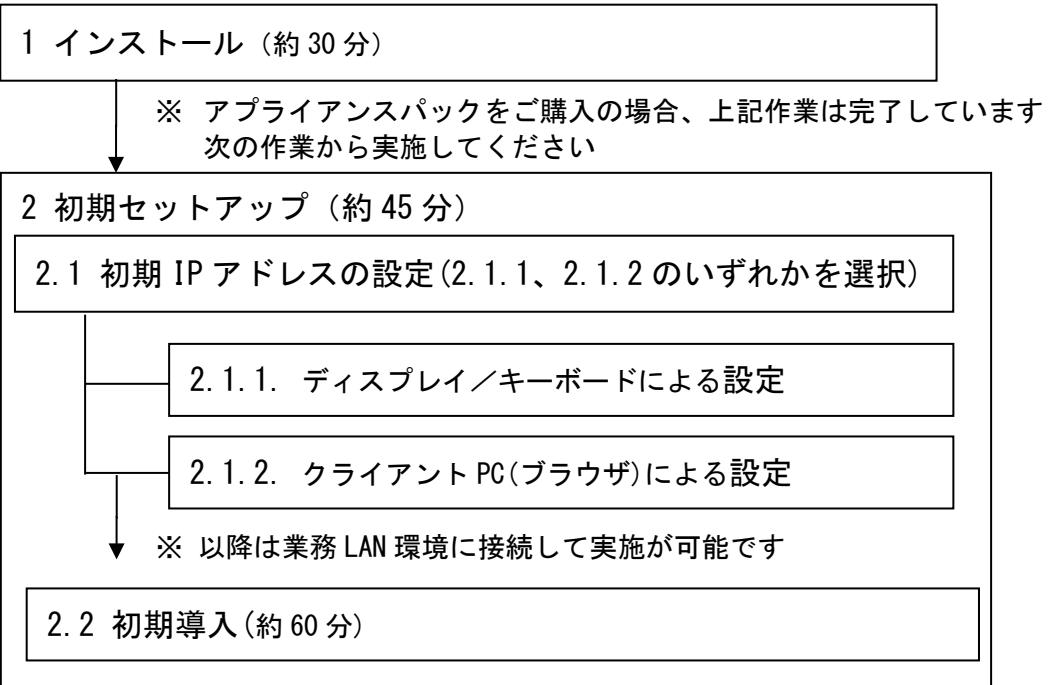
1章 はじめに

本書では、LB400k のインストール、初期セットアップ（初期 IP アドレスの設定手順と初期導入手順）について説明します。

初期導入では、LB400k をお客様環境で導入するための準備作業を行います。

インストールから初期導入までの流れは以下のとおりです。

※ この時点では業務 LAN 環境には接続しないでください。



上記の時間は合計所要時間（目安）です。本体装置のディスク構成によっては、時間が前後する場合があります。

2章 インストール

LB400kをハードウェアにインストールします。



アプライアンスパックをご購入のお客様は、本作業は完了しています。「3章 初期セットアップ」に進んでください。

単体ディスク構成で構築されている場合は、「2.2. インストールディスクによる本体装置設定」に進んでください。RAID構成で構築されている場合は、以下をご確認の上「2.1. RAID構成の構築」または「2.2. インストールディスクによる本体装置設定」に進んでください。

2.1. RAID構成の構築

通常のExpress5800シリーズ（RAID構成時）では、出荷時にRAID構成が完了していますので本作業は不要です。 RAID構成の状況が不明な場合は、「6.3. RAID構成を確認する」の手順に従いRAIDの構成を確認してください。RAID構成に関する論理ドライブの構成手順についての詳細は、「メンテナンスガイド」の「2章(5. RAIDシステムのコンフィグレーション)」や、オプションのRAIDコントローラーに添付の説明書を参照してください。

2.2. インストールディスクによるインストール

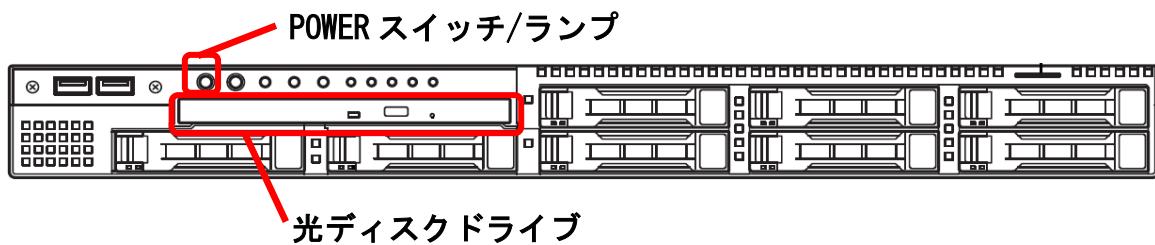
「インストールディスク」を使って LB400k をインストールします。以下の手順を行ってください。



再度、インストールディスクによりインストール手順を実行する場合は、本体装置内の全データが消去されます。
必要なデータが本体装置内に残っている場合は、データのバックアップを行ってから操作を実行してください。

- (1) 「インストールディスク」から起動します。
本体装置の POWER スイッチを押して電源を ON にし、「インストールディスク」を本体装置の光ディスクドライブに挿入してください。
約 1 分後に、自動的にインストールが開始されます。

・正面



インストールディスクから起動すると無条件にインストールを実行します。
本体装置の光ディスクドライブにインストールディスクを挿入したままにしないでください。

- (2) 約30分でインストールが完了します。
インストールが完了すると画面上に「Installation complete. Press return to quiet.」のメッセージが表示されます。
ENTER キーを押すと本体装置の再起動を開始し、ディスクが自動的にイジェクトされます。
「インストールディスク」を取り出し、光ディスクドライブを閉じてください。
POST 画面が表示されたら、電源ボタンを押下し、電源を OFF します。
30 分以上待ってもインストール完了のメッセージが表示されない場合はインストールに失敗している可能性があります。
失敗していると考えられる場合は、再度(1)から実施してください。



インストールが終了しない（失敗する）場合、以下を確認してください。

- RAID 環境の状態が正しいか確認してください（「6.3. RAID 構成を確認する」参照）
- ハードウェアが以下のいずれかであるか確認してください。
Express5800/R110i-1(N8100-2527Y、または N8100-2532Y)

3章 初期セットアップ

LB400k をお客様のネットワーク環境に接続するため、初期 IP アドレスの設定が必要となります。LB400k をお客様のネットワーク環境に接続するため、初期 IP アドレスの設定が必要となります。「4章 初期導入」を参照してください。

3.1. 初期 IP アドレスの設定

LB400k インストール後のネットワーク構成は、以下のとおり設定されています。

LAN インタフェース	:	LAN1 (eth0)
IP アドレス	:	192.168.250.250
ネットワークマスク	:	255.255.255.0
ホスト名	:	intersec.domain.local

お客様のネットワーク環境に応じたネットワーク構成で初期導入を行えるようにするために、初期IPアドレスを変更することができます。

初期IPアドレスを変更しない場合は、「4章 初期導入」へお進みください。

初期 IP アドレスの変更には、以下の 2 種類の方法があります。

お客様環境に合わせて、いずれかの手順を実施して初期導入へとお進みください。

(1) ディスプレイ／キーボードによる手順

本体装置に接続したディスプレイとキーボードを使って、初期IPアドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

詳細は「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」をご覧ください

(2) クライアントPC(ブラウザ)による手順

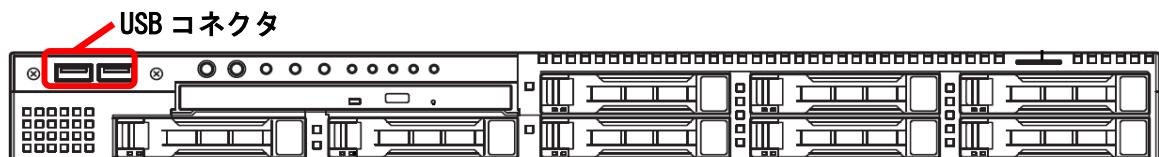
本体装置とLAN接続したクライアントPC (Windowsマシン) のブラウザ画面から初期IPアドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

詳細は「3.1.2. クライアントPCによる手順」をご覧ください

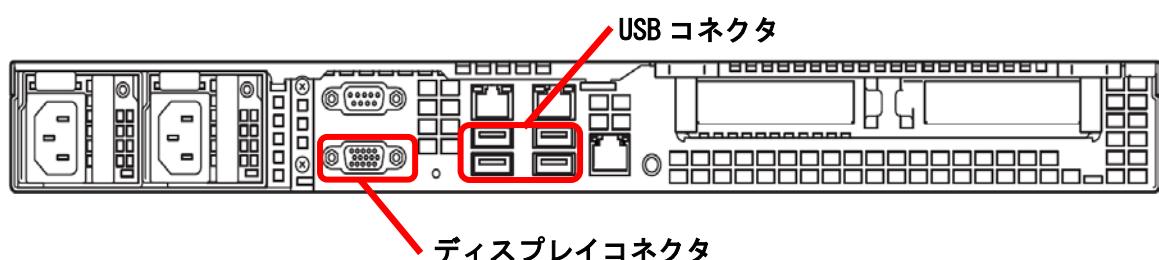
3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順

本体の電源ボタンを押して起動してください。

・正面



・背面



3.1.1.1. LB400k へのログイン

LB400k が起動すると以下のログイン画面が表示されます。

```
Red Hat Enterprise Linux Server 7.3 (Maipo)
Kernel 3.10.0-514.6.1.el7.x86_64 on an x86_64
```

```
intersec login: _
```

ログイン名「root」でログインしてください。

ログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : 初期パスワード(※)



- ・ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

3.1.1.2. 初期 IP アドレスの変更

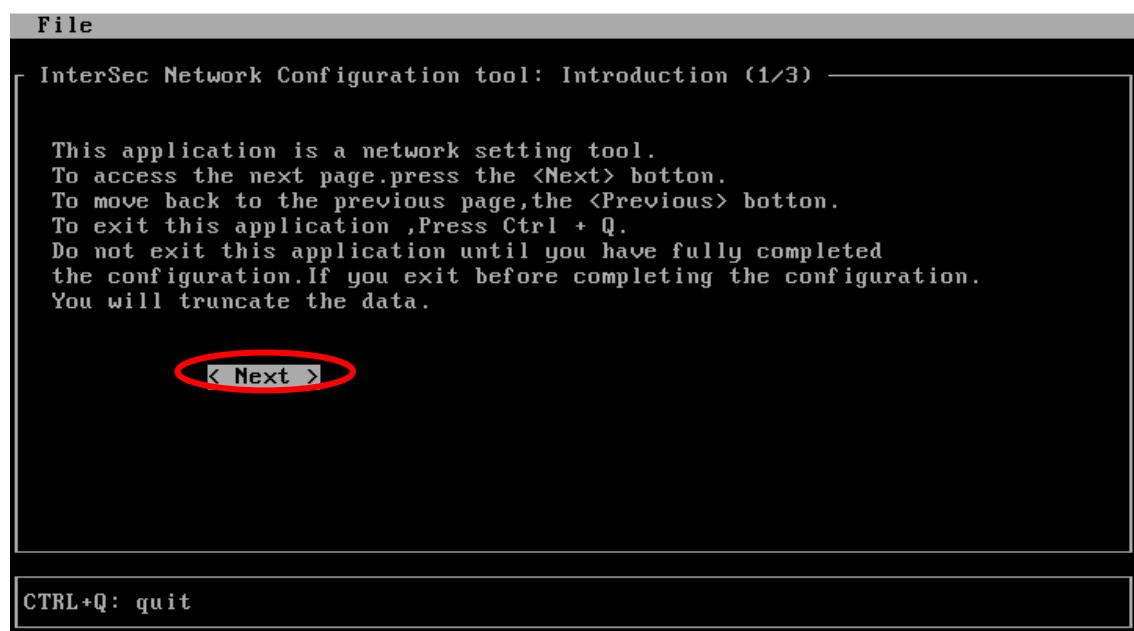
(1) 初期IPアドレス変更コマンドの実行

root アカウントのプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
intersec-init-c
```

(2) イントロダクション画面が表示されます

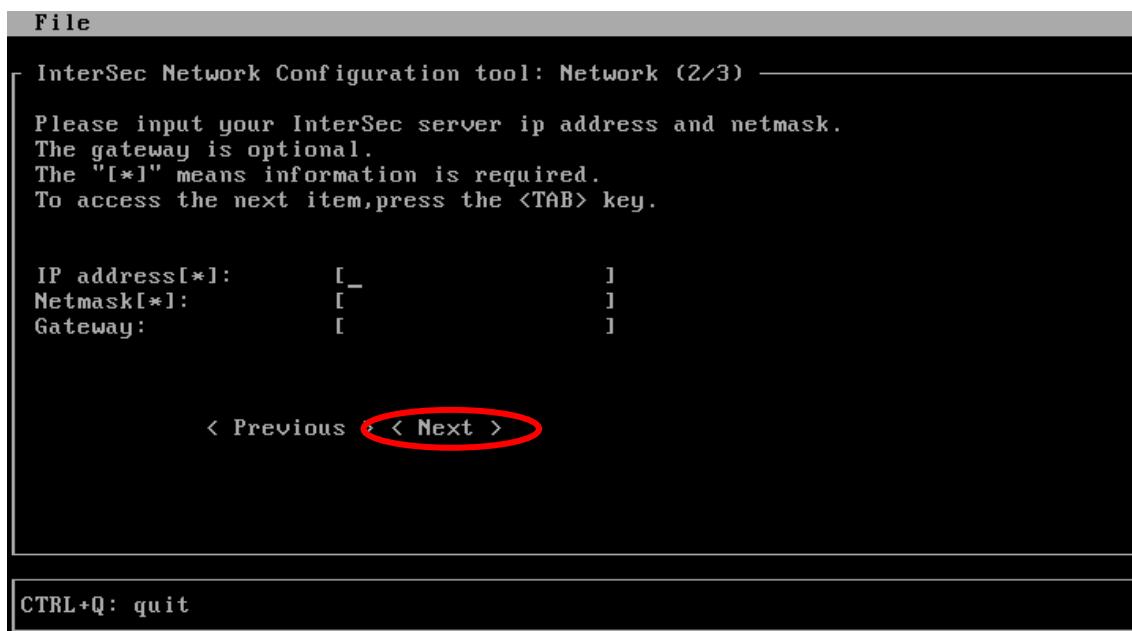
[< Next >]を選択 ([Enter]キーを押下) してください。



(3) IPアドレス情報の入力画面が表示されます。

IPアドレス(IP address[*])、ネットマスク(Netmask[*])、Gatewayの項、それぞれに
対してアドレス情報を入力します。入力が完了しましたら「< Next >」を選択してください。

[*] は入力必須項目です



(4) 確認画面が表示されます。

入力した内容を確認してください。入力した内容に問題がなければ[< Apply >]を選択してください。ネットワーク設定を行います。訂正したい場合は、[< Previous >]を選択し (3)からやり直してください。

```
File
InterSec Network Configuration tool: Confirm (3/3)

Your InterSec server ip address,netmask and gateway data are listed below.
Please double check the data to confirm.
If they are correct and then push the <Apply> button.

IP address: 192.168.100.2
Netmask[*]: 255.255.255.0
Gateway: 192.168.100.1

< Previous > < Apply >

CTRL+Q: quit
```

(5) 完了画面が表示されます。

[< OK! >]を選択してください。入力されたIPアドレスが有効な状態になります。

```
Success!

Configuration was sucessful. Please press the < OK! > button.!

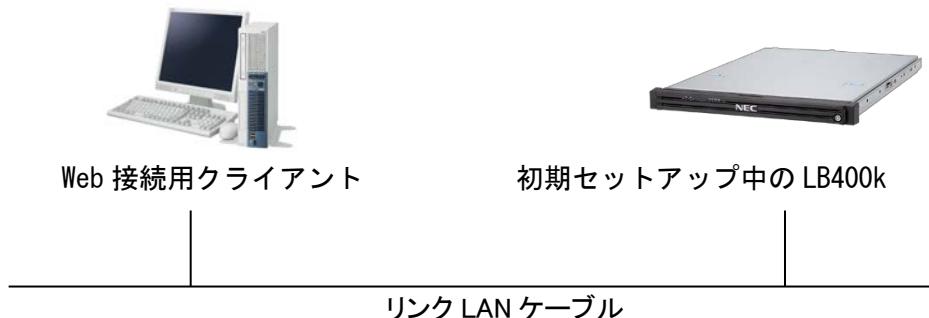
< OK! >
```

以降は「4章 初期導入」の手順に従い、初期導入を開始してください。

変更した初期IPアドレスを確認したい場合は、「6.2. 初期IPアドレス設定後のIPアドレスを確認する」を参照してください。

3.1.2. クライアント PC による手順

本体装置とクライアント PC の準備を行います。

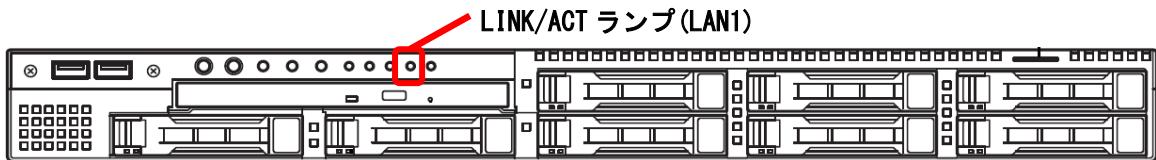


項目	説明
Web 接続用クライアント PC	Internet Explorer から Web 接続して初期 IP アドレスを変更します。ご使用になるブラウザは、Internet Explorer 9.0 以上を推奨します。
初期セットアップ中の LB400k	初期 IP アドレスは以下のとおりです。 LAN ポート : LAN1 (eth0) IP アドレス : 192.168.250.250 ネットワークマスク : 255.255.255.0 ホスト名 : intersec.domain.local
リンク LAN ケーブル	クライアント PC と LB400k サーバの LAN インタフェース (LAN1 (eth0)) に接続します。

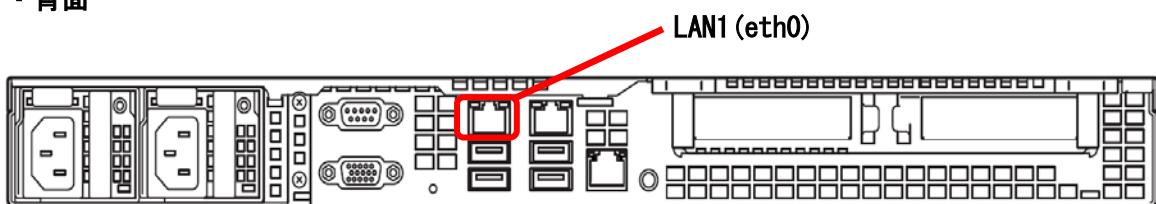
LB400k への LAN ケーブルの接続は以下の図を参照して行ってください。

(1) 2ch(増設 LAN なし)の場合

・正面

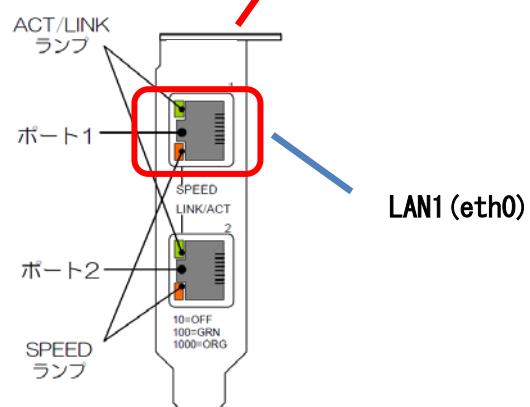
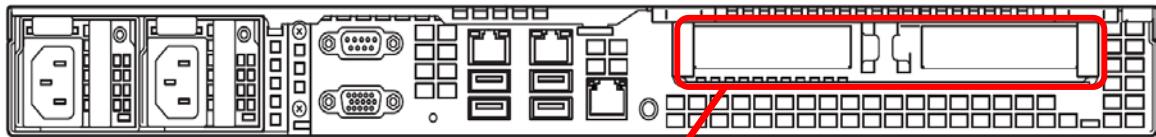


・背面



(2) 4ch(増設 LAN あり)の場合

・背面



※ オンボードの LAN は、LAN3 (eth2) および LAN4 (eth3) になります。

3.1.2.1. Web 接続用クライアント PC の準備

Web ブラウザを介して本体装置の初期 IP アドレスを変更するために使用するクライアント PC (Windows マシン) を用意してください。

クライアント PC の IP アドレスは、本体装置と同じネットワークの IP アドレス (例: 192.168.250.1) を設定してください。

3.1.2.2. LAN ケーブルでの接続

クライアント PC と本体装置を LAN ケーブルで接続後、本体装置の電源ボタンを押して起動してください。

本体装置の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯していることを確認してください。

クライアント PC から ping コマンドなどを使用して接続可能な状態であることを確認してください。

[実行例]

```
C:\> ping 192.168.250.250

Pinging 192.168.250.250 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128

Ping statistics for 192.168.250.250:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

本体装置と通信できない場合は、クライアント PC のネットワーク設定やネットワークケーブルの状態が正しいか確認してください。

※ 他の機器が存在するネットワーク環境に接続する場合は、本体装置の初期IPアドレスと他機器のIPアドレスが重複していないか確認してください。

3.1.2.3. 初期IPアドレス変更 Web画面への接続

クライアントPCのWebブラウザから LB400k の初期IPアドレス設定画面に接続してください。クライアントPCのWebブラウザから以下のURLを指定して接続してください。

http://192.168.250.250:50453/intersec-init-g/

LB400kと正常に通信できない場合は、設定されているネットワークと接続できるよう
に、クライアントPCのネットワーク設定を確認してください。

LB400kに接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



以下のユーザ名、ログインユーザ名、パスワードを入力して[OK]を押下しログインしてください。

ユーザ名 : root

パスワード : 初期パスワード(※)

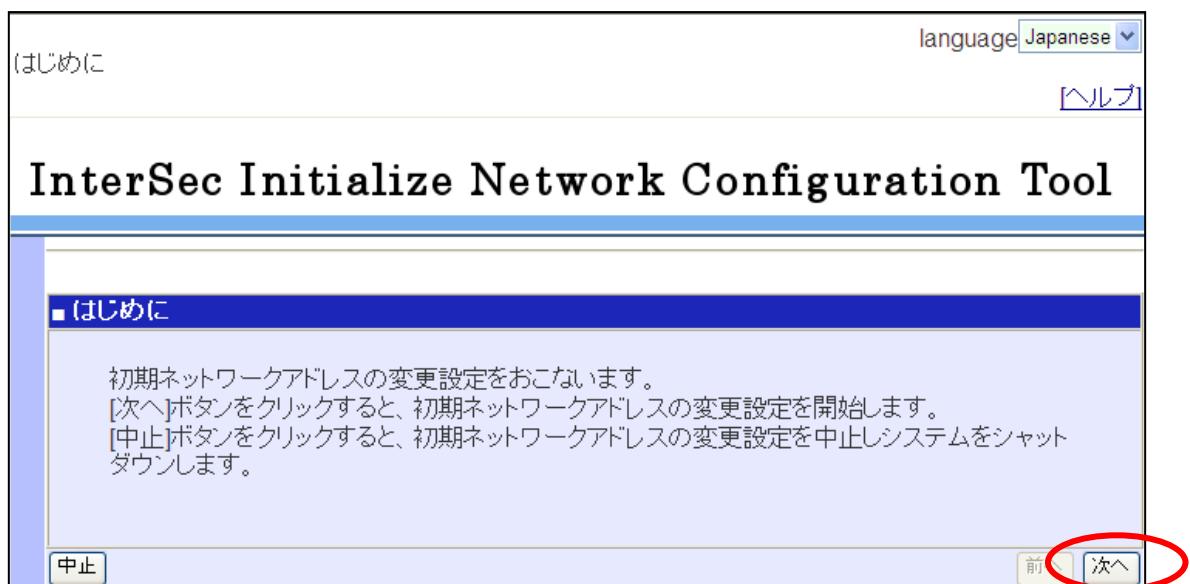


- ・ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載して
いるパスワードを入力してください。

3.1.2.4. 初期アドレスの変更

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

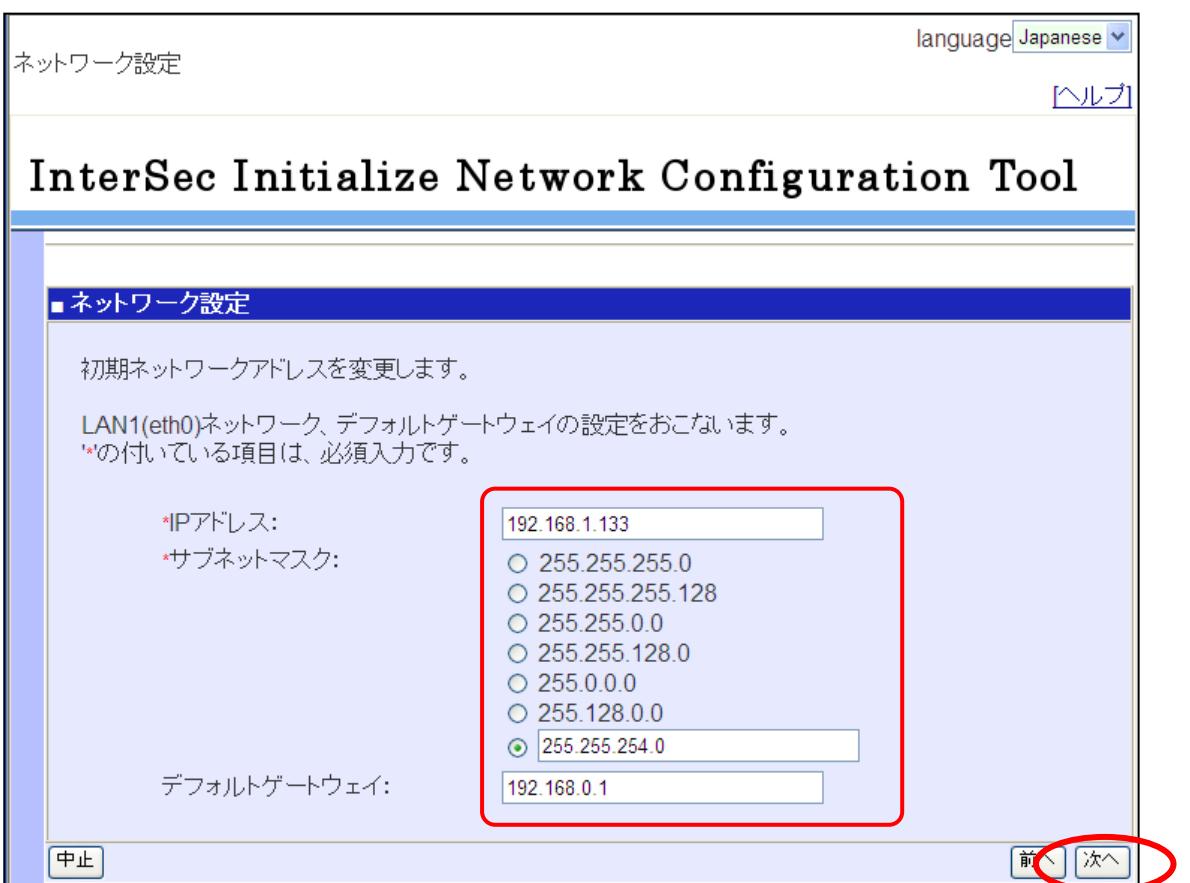
(1) はじめにが表示されます。[次へ]を押下してください。



(2) 変更後の初期 IP アドレスを指定します。

必要な項目に入力を行い、[次へ]を押下してください。

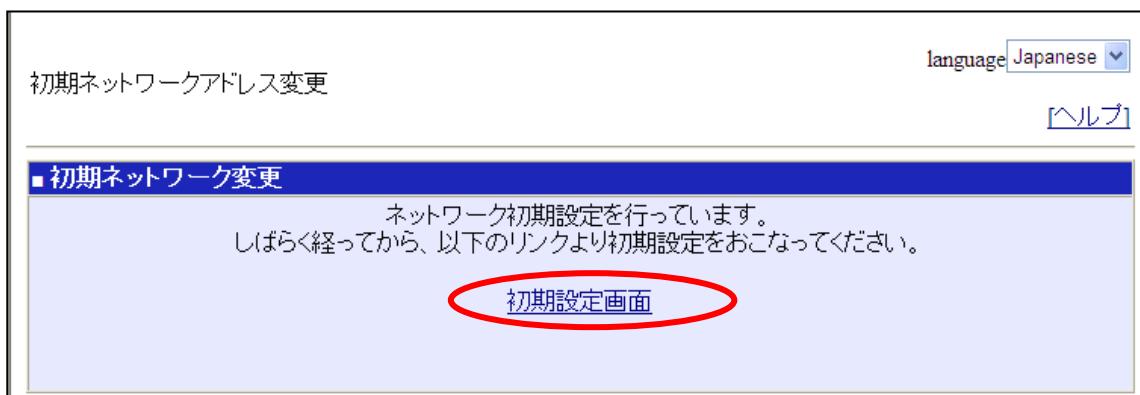
なお、IP アドレス、サブネットマスクは必須入力項目です。



(3) (2)で入力した内容をご確認ください。入力した内容に問題がなければ、[次へ]を押下してください。



(4) ネットワーク設定が実行されます。初期導入を続けて行うには、しばらく経ってから以下の画面より、初期設定画面のリンクをクリックし、初期導入画面を開き、初期導入を行ってください。



初期設定画面への接続は、初期 IP アドレスの設定を行った、LB400k の新しい IP アドレスに、クライアント PC からアクセスできる環境であることが必要です。ネットワークセグメントを変更した場合等は、クライアント PC の設定変更が必要となりますのでご注意ください。

以降は「4章 初期導入」に従い、初期導入を行ってください。

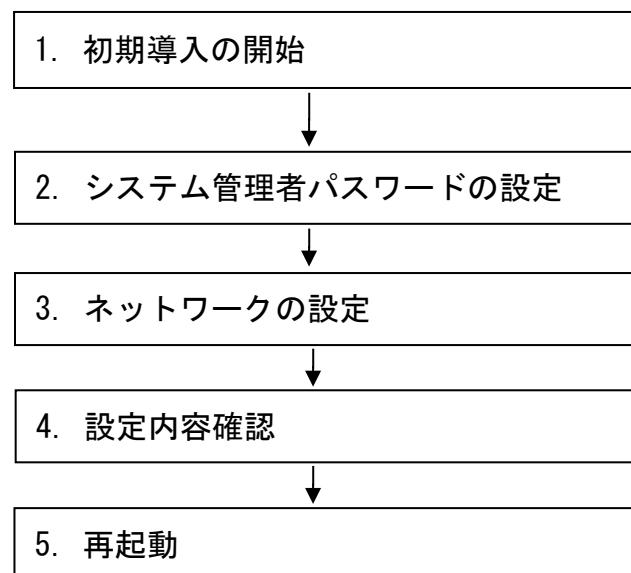
4章 初期導入

4.1. 初期導入について

LB400k の初期導入は、Windows クライアント PC（以下、クライアント PC）から Web ブラウザを使用して行います。

4.2. 初期導入の流れ

LB400k の初期導入の流れは以下のとおりです。運用するネットワーク環境に合わせて初期設定を行ってください。



4.2.1. 初期導入の準備

LB400kの初期導入は、「3.1. 初期IPアドレスの設定」後に行います。

初期IPアドレスを変更していない場合は、以下の設定となっています。

LAN ポート	:	eth0
IP アドレス	:	192.168.250.250
ネットワークマスク	:	255.255.255.0
ホスト名	:	intersec.domain.local

初期導入を行うため、LB400kをお客様環境への設置（業務LAN環境への接続など）してください。初期IPアドレスで設定したIPアドレスに対してWeb接続可能なクライアントPC(Windowsマシン)を用意してください。

4.2.2. 初期導入画面への接続

LB400kの初期導入実行に際し、別途ご用意いただいたクライアントPCのWebブラウザからLB400kへの接続、およびログインを行ってください。

※ 以下の説明では、本体装置に設定したIPアドレスを「192.168.250.250」として説明します。適宜お客様で設定したIPアドレスに読み替えてください。

■ LB400k 初期導入画面への接続

LB400k の初期導入画面には、クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL を指定して接続してください。

http://192.168.250.250:50453/

接続できない場合、クライアント PC 側から、ping コマンドなどを使用して通信状態を確認し、クライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

[実行例] C:¥> ping 192.168.250.250



LB400k の IP アドレス設定状況を確認したい場合は、「6.2. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する」を参照ください。

■ LB400k 初期導入画面へのログイン

LB400k の初期導入画面に接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



初期導入画面へのログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : 初期パスワード(※)

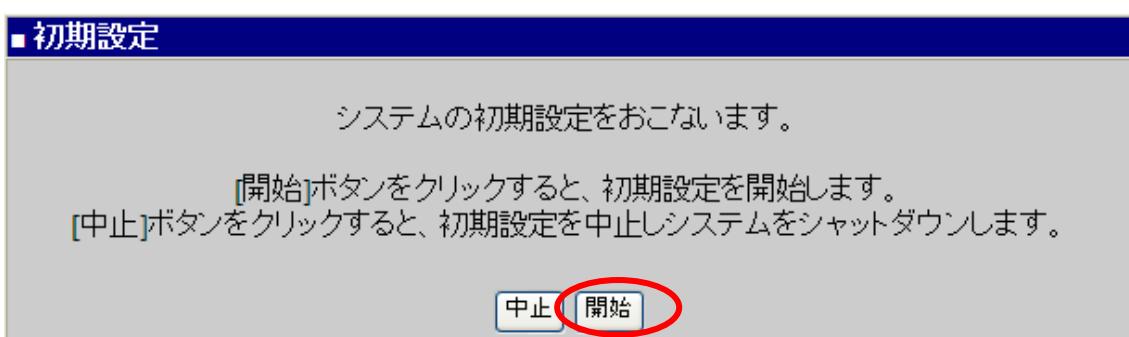


- ・ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

4.2.3. 初期導入の実行

(1) 初期設定の開始

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始] を押下し、初期導入を実施します。



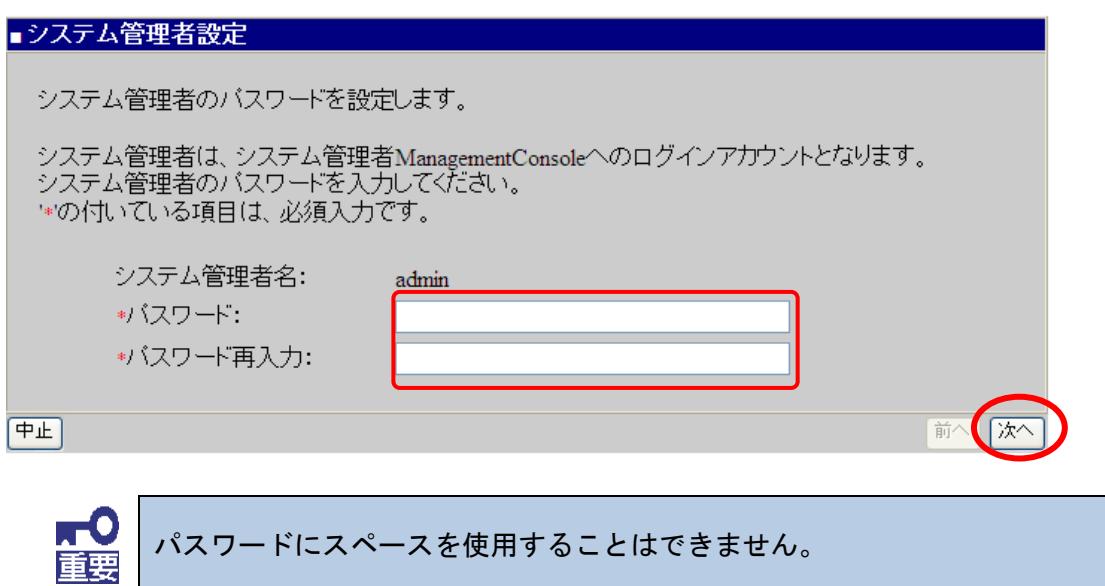
メモ：初期設定を中断したい場合は、各設定画面の [中止] を押下します。

(2) システム管理者設定

ここでは、システム管理者のパスワードの設定を行います。

システム管理者のアカウントは “admin” (固定) です。

システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して [次へ] を押下します。 システム管理者名のパスワードの指定は必須です。



メモ：システム管理者のアカウントは、初期導入完了後、システム管理者 Management Console 画面で変更できます。

(3) ネットワーク設定

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

「ホスト名(FQDN)」にはセカンドレベル以上のドメイン名を含むホスト名を入力してください。

「ホスト名(FQDN)」、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、[次へ] を押下します。

※ 項目名の先頭に '*' があるものは必須入力項目です。

項目名	設定内容
* ホスト名	LB400k の FQDN を設定します
* IP アドレス	LB400k の IP アドレスを設定します
* サブネットマスク	ネットワークマスクを設定します
* デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

■ ネットワーク設定

システムのネットワーク基本情報を設定します。

LAN1(eth0)ネットワーク、デフォルトゲートウェイ、名前解決(DNS)サーバの設定をおこないます。
'*'の付いている項目は、必須入力です。

*ホスト名(FQDN): lb400i-79.iplb.local

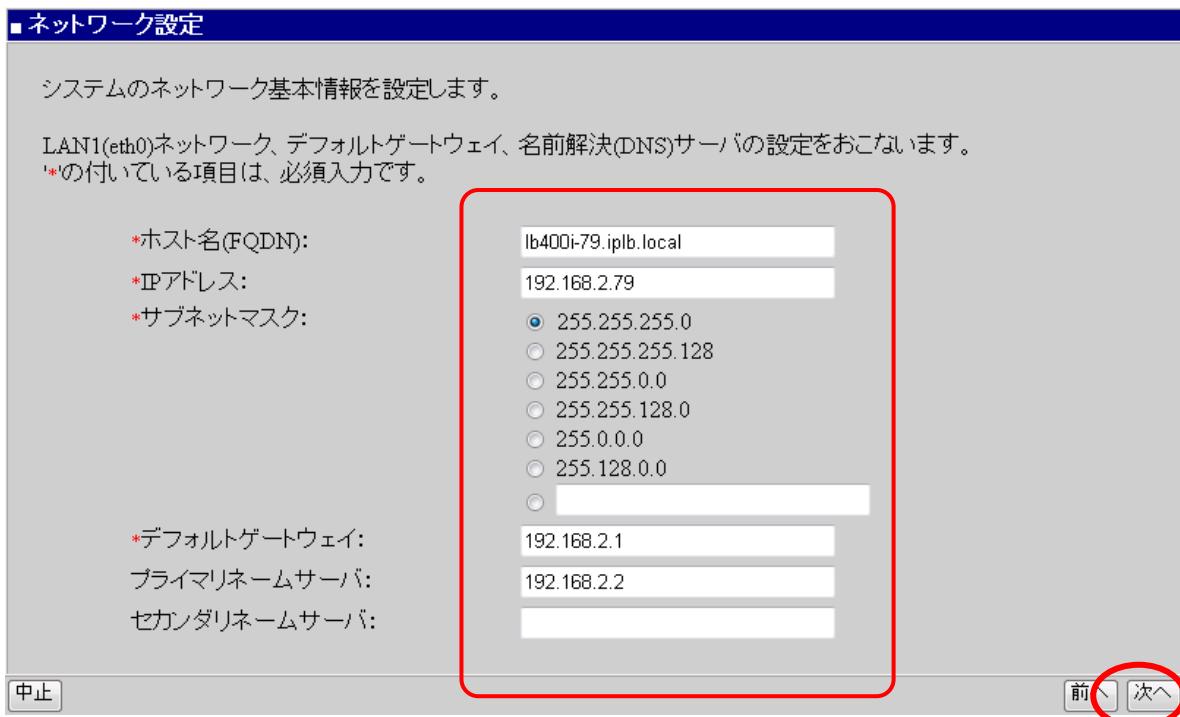
*IPアドレス: 192.168.2.79

*サブネットマスク: 255.255.255.0
 255.255.255.128
 255.255.0.0
 255.255.128.0
 255.0.0.0
 255.128.0.0

*デフォルトゲートウェイ: 192.168.2.1

プライマリネームサーバ: 192.168.2.2

セカンダリネームサーバ:



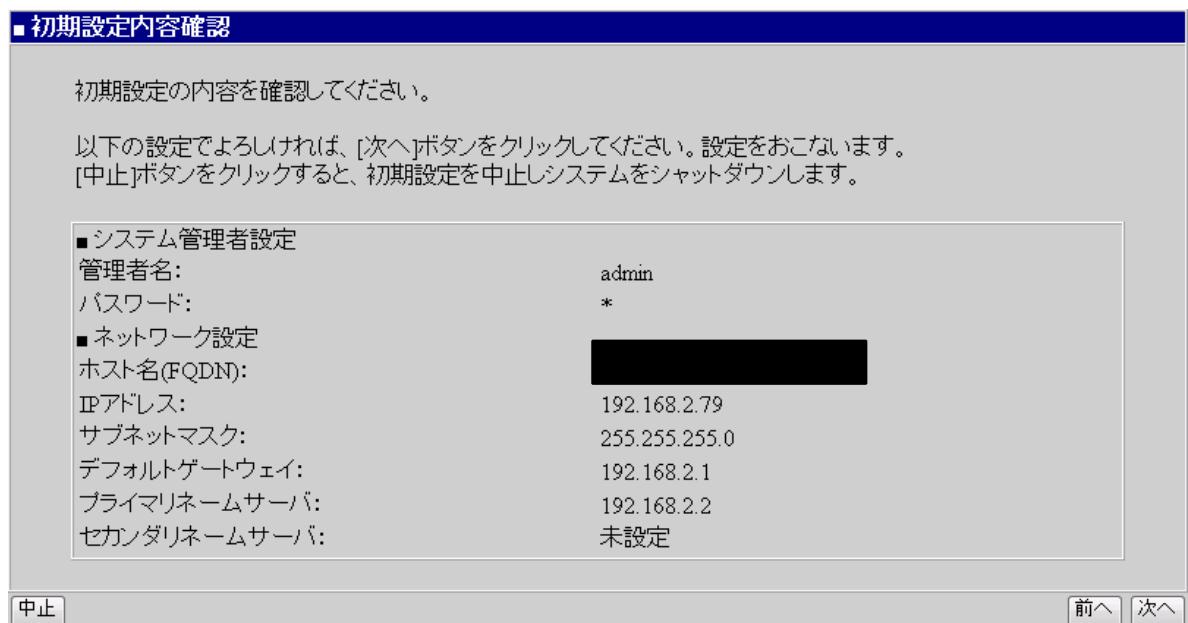
メモ: IP アドレスとサブネットマスクは現在設定されているものが表示されますので、特に変更する必要はありません

(4) 設定内容確認

入力した設定内容を確認してください。

設定内容に間違いがなければ、[次へ] をクリックしてください。

設定内容を変更する場合は、[前へ] をクリックして変更対象画面に戻り設定を修正してください。

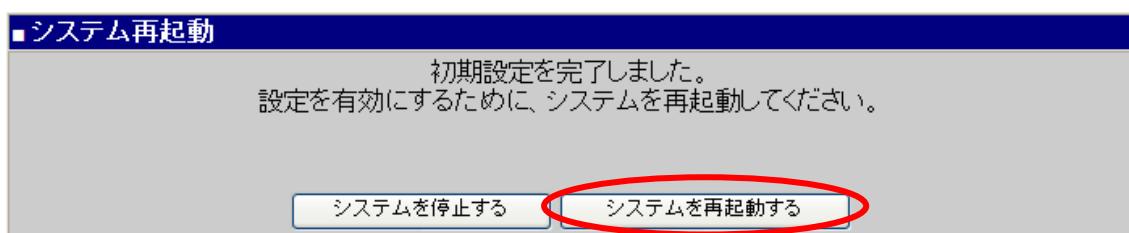


(5) システム再起動

設定を有効にしてシステムを運用可能な状態にするため、システムを再起動します。

[システムを停止する] を押下した場合、システムは停止状態となりますので、再度起動(パワーオン)を行ってください。

[システムを再起動する] を押下した場合、システムの再起動を行います。

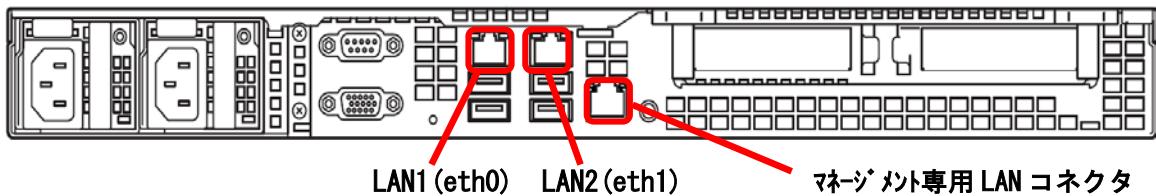


以上で、初期導入は終了です。完了後、LB400k の詳細な設定や管理は、管理コンソール「Management Console」画面にて行います。詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

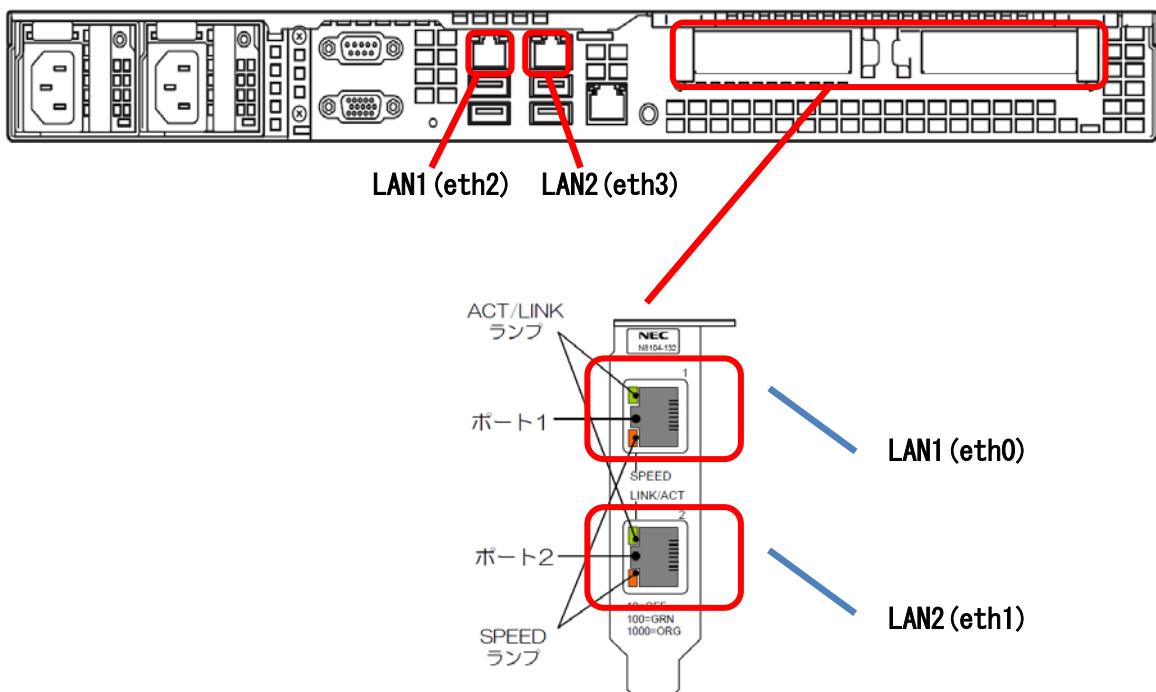
5章 注意事項

1. インストール作業にEXPRESSBUILDERでのセットアップは利用できません。LB400k添付のインストールディスクからインストールを行ってください。
2. 二重化構成など複数台のLB400kを導入する場合は、必ず初期IPアドレスを変更してから業務LANに接続してください。初期IPアドレスを変更せず同時に業務LANに接続を行った場合、IPアドレスの重複が発生して正しく初期導入が行えません。
3. 「4章 初期導入」実施後は初期IPアドレスが変更されたと認識されるため、「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」、「3.1.2. クライアントPCによる手順」のいずれの手順でもIPアドレスの変更はできません。
「4章 初期導入」実施後にIPアドレスを変更する場合は、管理コンソール「Management Console」画面から変更してください。
4. LB400kへのケーブル接続について
LANポート1を必ず運用時のネットワークに接続してください。
セットアップ(Webブラウザを使用)では、LANポート1(システムでは、eth0として扱われます)を使用して進めます。

2ch動作時



・4ch動作時 (N8104-151を追加実装)



6章 付録

6.1. ESMPRO/ServerAgentService を利用する

本体装置の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgentService」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体装置の温度などを監視する場合にこのソフトウェアを使用してください。監視には、別途 ESMPRO/ServerManager がセットアップされた PC（管理コンピュータ）が必要です。

詳しくは、『ESMPRO/ServerAgentService ユーザーズガイド (Linux 編)』を参照してください。



「ESMPRO/ServerManager」は、LB400k 本体装置ではご利用できません。

6.2. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する

初期 IP アドレスの設定後に、正しく IP アドレスが設定されているか確認するためには、本体装置にディスプレイとキーボードを接続する必要があります。

「3.1.1. ディスプレイ／キーボードによる手順」の章を参考に、以下のコマンドを入力することで、現在、設定されている IP アドレスが表示されます。

root アカウントのプロンプトから以下のコマンドを実行します。

```
intersec-setupinfo
```

実行結果イメージ

```
[root@intersec ~]# intersec-setupinfo
IP address: 192.168.1.239
Netmask    : 255.255.254.0
Gateway    : 192.168.0.1
[root@intersec ~]# _
```

誤って初期 IP アドレスを設定した場合は、「3.1.1.2. 初期 IP アドレスの変更」に従って、再度初期 IP アドレスの設定を行ってください。

なお、「4章 初期導入」実施後に、IP アドレスを変更する場合は、管理コンソール「Management Console」画面から実行してください。

詳細は、LB400k の『ユーザーズガイド』を参照してください。

6.3. RAID 構成を確認する

EXPRESSBUILDER を使用した RAID 構成の確認および再設定方法について説明します。

(1) 内蔵フラッシュメモリから「EXPRESSBUILDER」を起動します。

1-1) POST 中の、以下のような表示がされた直後に、<F3>を押下します。

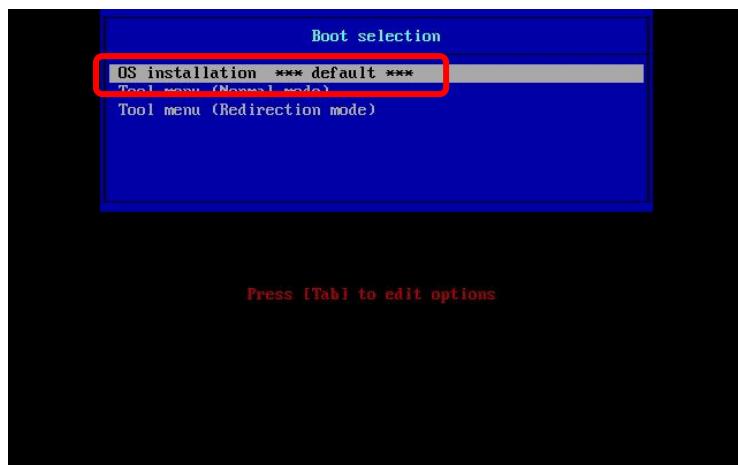
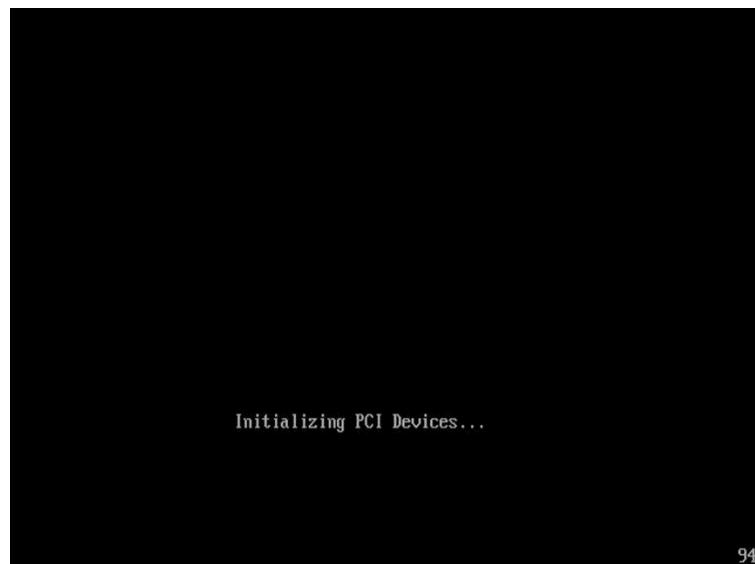
Press <F2> SETUP, <F3> Internal Flash Memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network

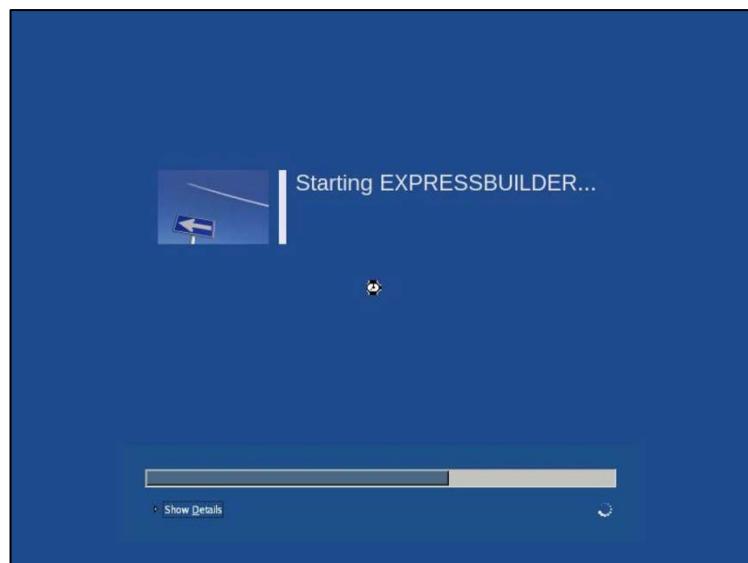


- ・<F3>キーはメッセージを表示してから、5秒間キー入力を受け付けます。
- ・<F3>キーを押しても、起動可能なディスクが光ディスクドライブに入っているときは、ディスクから起動します。

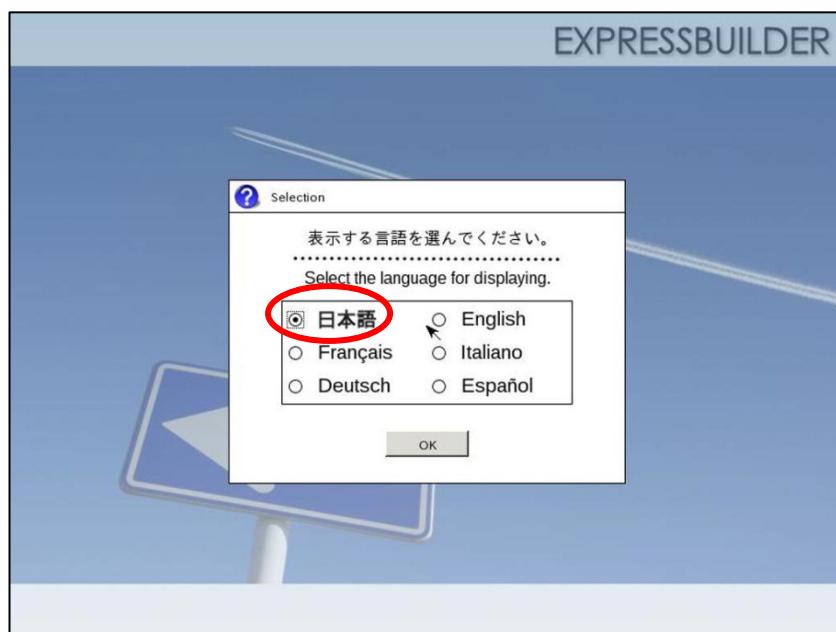
1-2) 以下の順番で画面が遷移します。

Boot selection 画面では「OS installation *** default ***」を選択してください。

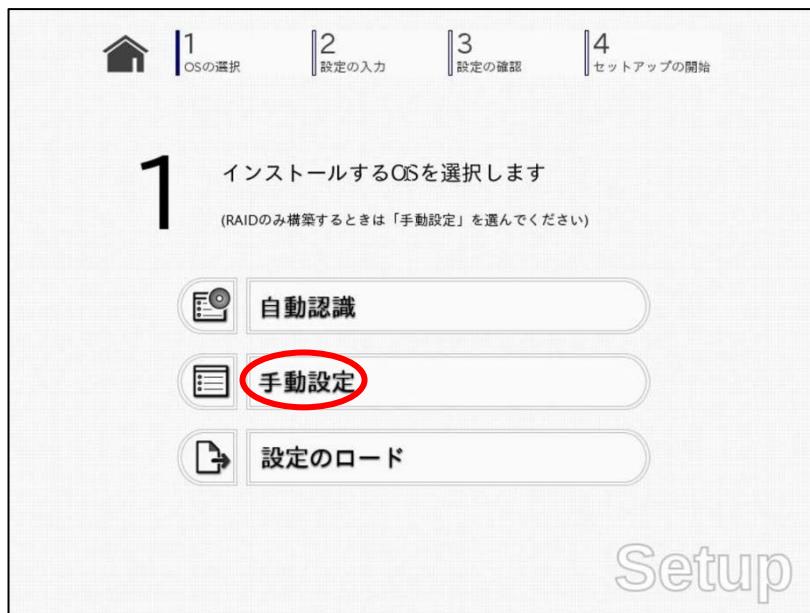




(2) 日本語を選択してください。



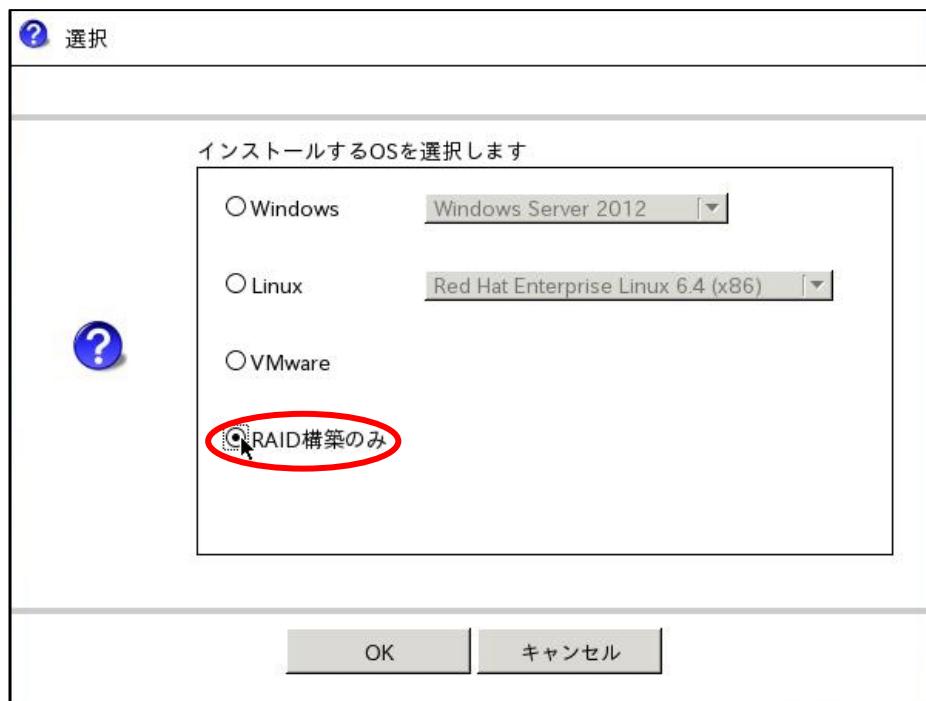
(3) 手動設定を選択してください。



(4) カスタムを選択してください。

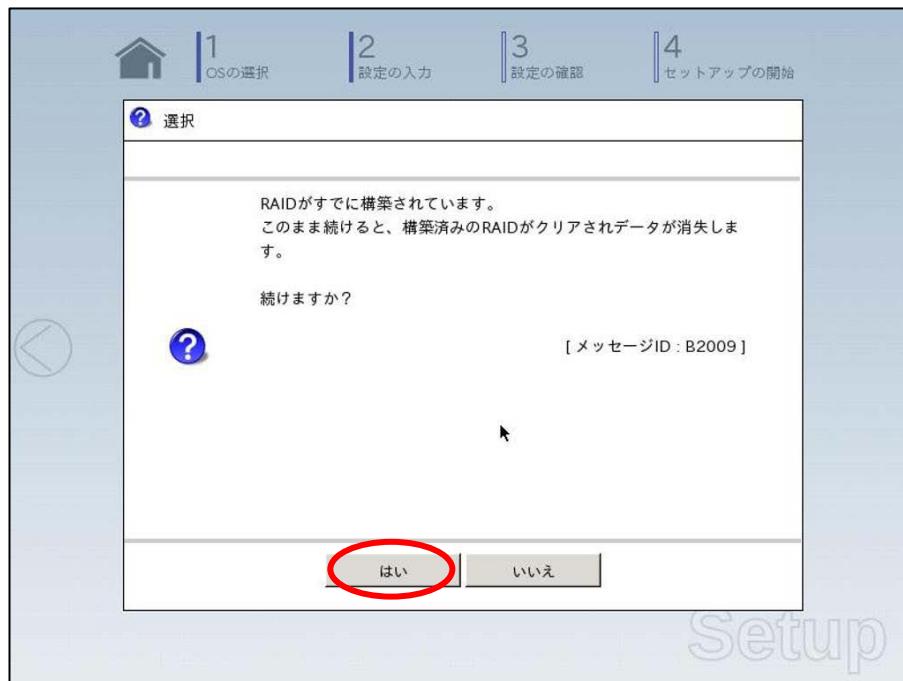


(5) RAID構築のみを選択してください。

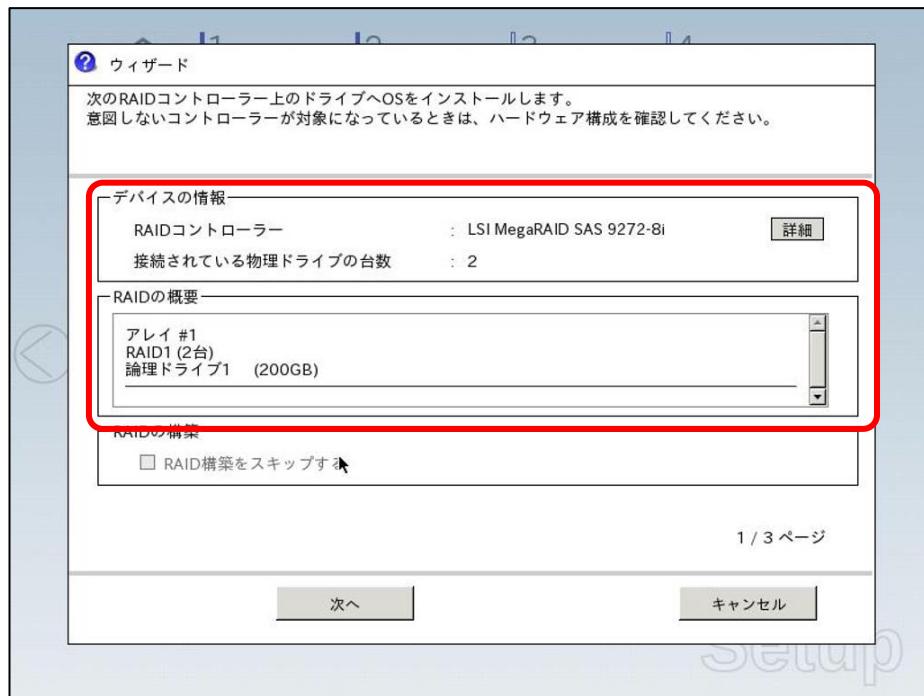


(6) RAIDのアラームが表示されますが、「はい」を選択してください。

選択した直後では、構築済みのRAID構成は初期化されません。



(7) デバイスの情報、RAIDの概要を確認してください。RAIDの概要では、現在確保されている論理ドライブとサイズを確認することができます。



RAID構成を再構築する必要がある場合は、[次へ]を選択して再構成を行ってください。
詳細は、ハードウェアに添付されているユーザーズガイドを参照してください。
再構築の必要がない場合は、[キャンセル]を選択してください。次項(8)の画面が表示されます。

(8) ホームアイコンをクリックし、「EXPRESSBUILDER」メニューを終了してください。

